

参考資料

2008年6月24日

当参考資料は、F. ホフマン・ラ・ロシュが2008年6月24日（スイス現地時間）に発表した英文プレスリリースを、戦略的アライアンスを締結している中外製薬が翻訳版として、報道関係者の皆様に提供させていただくものです。

従いまして、日本国内と状況が異なる場合があること、また、正式言語が英語であるため、表現や内容につきましては英文プレスリリースが優先されますことをご留意下さい。

英文プレスリリースは、<http://www.roche.com/home/media/med-cor.htm> をご参照下さい。

2008年6月24日 バーゼル発

ロシュの中外製薬に対する持株比率を増加させるための 公開買付けが成功

ロシュは、本日、2008年5月23日に開始した公開買付けが成功裏に完了し、これにより、中外製薬に対するロシュの持株比率が50.1%から59.9%に増加する旨を発表しました。中外製薬の株主は、2008年5月21日の中外製薬の株価の終値である1,549円に11.7%のプレミアムを上乗せした一株あたり1,730円の価格で公開買付けに応募する機会を提供されてきました。この取引は2002年10月のアライアンス開始から5年目以降のいかなる時期でも持株比率を59.9%に増加させることができるというロシュの権利に基づくものです。

中外製薬について

中外製薬は、医療用医薬品に特化し東京に本社を置く、バイオ医薬品をリードする研究開発型の製薬企業の一つです。

2002年10月のロシュとの戦略的アライアンスの開始以降、ロシュ・グループの重要メンバーとして、国内外で積極的な医療用医薬品の研究開発活動を展開しています。特に「がん」「腎」「骨・関節」の3領域を中心に、国際的に通用する革新的な医薬品の創製に取り組んでいます。

国内では、御殿場、鎌倉の研究拠点が連携して創薬研究活動を行う一方、浮間では工業化技術の研究を行っています。また海外では、子会社の中外ファーマ・ユー・エス・エー、中外ファーマ・ヨーロッパにて、米国と欧州においてそれぞれ臨床開発活動を行っています。

2007年の連結売上高は3,448億円、営業利益は667億円でした。

ロシュについて

ロシュは、スイスのバーゼルに本社を置く医薬品および診断薬領域における研究開発型の世界的ヘルスケア企業です。ロシュ・グループは、世界最大のバイオテクノロジー企業であり、疾病の早期発見、予防、診断、治療のための革新的製品やサービスのサプライヤーとして、人びとの健康と QOL の改善に多方面で貢献しています。診断薬事業、がんおよび移植領域の医薬品で世界第1位、ウイルス感染症領域ではマーケットリーダーです。さらに、自己免疫疾患、炎症、代謝および中枢神経系などの主要な治療領域でも活躍しています。2007年度の売上は、医薬品事業では368億スイスフラン、診断薬事業では93億スイスフランでした。また、ロシュは世界各国に約79,000人の社員を擁し、多数のパートナー企業と研究開発契約や戦略的アライアンスを締結しており、ジェネンテックと中外製薬の株式の過半数を保有しています。また、研究開発費に約80億スイスフランを投資しています。ロシュ・グループに関するさらに詳しい情報は www.roche.com をご覧下さい。

本プレスリリースに使用された商標はすべて法律で保護されています。